

みどりのはっぱ



Vo.13

★グリーンポスト事務局会議開催!

2019年度第一回事務局会を令和元年十一月二日(土)大阪市中央区の事務所に於いて開催しました。

議題は、

- ① 第20回理事会、第9回社員総会で決定された事務局体制について
具体的活動を事務局2グループで検討する
- ② 旅費交通費について
入退室記録簿を作成活用する
- ③ 会費未納者の扱いについて
第21回理事会で決定する
- ④ 支援団体への支援協力依頼について
幹旋物品について
台風被害によりリングが幹旋できなくなったこともあり、リングと干し芋以外の物品を検討していく
- ⑥ 機関紙の発行について
その他
・協賛、支援団体の行事把握と参加
・萬葉グループ会員拡大
など協議を行いました。

※(社)グリーンポストは昨年十二月一日で設立10周年を迎えました。
今後のご支援もよろしくお願ひします。

【発行者・所在地】
グリーンポスト事務局
大阪市中央区宗右衛門
町5-25-302
☎06-6212-3100

○教育支援について

タイ・バンコクを中心に「子どもにかかわるすべてのおとなの応援団」として、タイ全土に活動を広げているマレットファンからタイ北部山岳地帯における絵本普及プロジェクトの活動を紹介します。

1. 活動の概要

2018年12月18日、19日、タイ北部チェンライ県メーファールアン郡のトゥータイ幼稚園・小学校において、絵本展および教員向けの研修会を実施し、当校の幼稚園年少クラスから小学校の年生までの児童1200人および周辺地区の障がい児(非就学児童)の親子15組、さらに当校教員20名が参加しました。

※実施費全額は150,000円(車両費、宿泊費、材料費、人件費など)

2. 活動の経緯および成果

当会の絵本普及プロジェクトはタイ教育行政の予算を活用し当国の読書推進に寄与しようとするものです。



チェンライ県チェンライ特別自治市とは2014年より当プロジェクトのパートナーとして協働し、市内の図書館および小学校8校、中高一貫校2校に対して読書推進活動が実施してまいりましたが、県内の山岳地帯への普及には至っておりませんでした。

しかし、昨年度、貴会、また他団体からのご協力を得て、当地域での活動が実現しました。

活動の成果として、多くの本に触れ合う機会の乏しい子どもたちへの読書推進の効果と共に、トゥータイ幼稚園・小学校教員および県障がい児支援課職員への視点の転換という効果があげられます。

教員対象の研修とあわせて、子どもたちが本へ自ら向かっていく姿を目にしたことにより、従来の「本を読みなさい」という指示的なアプローチでなく、子どもたちが自ら本に出会う機会をつくるという支援的なアプローチへの視点の転換が見られました。



※基金箱の回収について

次回の基金箱の回収は六月を予定していますので、よろしくお願ひします。

★マレットファン

バンコク親子セミナー紹介

2月19日、マレットファンから最近の活動として、2月1日（土）のセミナーが紹介されました。

「日本で子育て支援の場づくりに長年携わってこられた講師の方、さらに心理の専門家方による「0〜3歳の子どもへのかかわり方」セミナーを開催し、12人の保護者さん、8人の子どもたちが参加してくれました。

バンコクでは小さな子どもたちのあそび場や家族で過ごす場所などが少なく、マレットファンでは一昨年より親子のあそび場となるワークショップを定期的に開催してきました。

多くの反響をいただき、都会の子育て環境における新たなニーズが感じられました。

今回のセミナーはこれまで親子ワークショップに参加してこられた親子さんたちを対象に、子どもの発達やかかわり方についてのお話を聞くとともに、参加者同士の交流の機会となればと思います。

セミナー中、子どもたちは一人で遊んだり、友達と過ごしたり、お父さんと絵本を読んだり、それぞれ自由に楽しんでくれました。

子どもたちの声を耳にしながら、保護者さんからの意見交換も活発に交わされました。

「子どもたちの主張にどこまで付き合うべき？ 祖父母、夫婦間での子育ての共通ルールは必要？」などなど。

終了後、講師さんたちからは日本の親御さんと同じ悩みだよねと感想をいただき、とてもすっきりした表情でお帰りになった参加者を思い返し、やはり交流の場が必要とされていることを再認識しました。



「子どもにかかわるすべてのおとなの応援団・マレットファン」として、どのように応えていけるかを改めて考えていくきっかけをいただきました。

◎今年のカンボジア・パタンパン州

ノーリア小学校の校舎寄贈五周年！

今年ノーリア小学校校舎寄贈五周年ですが、新型コロナウイルスの影響で、来年以降に表敬訪問を計画していきたくと考えています。

内容については、追って紹介させていただきます。

故人を偲ぶ旅（タイペイ）

北口 好男

今回の橋本聖（故人）さんを偲ぶ旅は、彼と6年前に台湾を旅した思い出の地を辿る二泊三日です。メンバーは全員で8名の旅が始まります。九月二十七日（金）関西空港9時30発。タイペイ着は十一時三十分（時差1時間です）。

桃園空港到着後「中華郵政博物館」へ直行し、全員で中華郵政工會の吳文豐理事長・羅秘書長・李企画部長・林勞務部長・羅坤祐總務局長と台湾及び日本の郵便事業等の状況の意見交換を行いました。

何度も中華郵政工會を訪れて親交があり、顔なじみの方もおられて、懐かしい話を交わし大いに盛り上がりました。

続いて、中華郵政博物館の案内も中華郵政公會の方が特別に詳しく案内をしていただきました。

今回の訪問の一つは、橋本聖（故人）さんが中華郵政博物館に「日本の切手」を多く寄贈されており、思い出の中華郵政博物館は、台湾の郵便制度の発展史と小さな芸術切手・「黒便士」世界最初のイギリス切手・「雲龍郵票」セット中国最初の切手・「紅印花四宝」清時代の印刷した印紙に加刷し貴重な切手等々を見ました。（橋本聖さんが寄贈した切手も見せていただきました）

前回は中華郵政博物館で、思い思いの場所写真撮り、その写真でフレーム切手を作成していただきましたが、日程都合で出来なかったのは残念でした。



二八日（土）は十一時三十分ホテル出発。それまでは各自で市内散策を満喫しました。台北には、約500mの超高層ビル「台北101」や世界四大博物館の一つ、国立故宮博物館がある。

また、ジブリ映画「千と千尋の神隠し」のモデルとなった九份があり、十分に橋本聖さんを偲んで、「天燈上げ」を予定している。

ホテルから車で2〜3時間で十分に到着。

「天燈上げ」はランタンに願いを書き、熱気球と同じ原理で空に飛ばすのが台湾式です。

早々にお店に入り、2個（1個200円・四面に書く）の天燈に全員が橋本聖さんを偲んで、墨で想いを書きました。

いよいよ「天燈上げ」です。お店の人がランタンに火を付け、私達全員で2個の「天燈」で橋本聖さんを偲んで天高く上げました。



※お店の方に疑問を投げかけてみました。

揚げた「天燈」はどうなるのか？火事などは起きないのか？その答えは、天燈はランタンの枚数により、一番高く上がった時にランタンが消える仕組みになっています。

また、落ちたランタンは子供たちが拾ってお店に持って来るとお小遣いになるようです。

今回の一番メイン行事である橋本聖さんを偲んだ「天燈上げ」も無事に済みました。そこから車で九份の上まで上がり、車から降りて九份の基山街でグルメとみやげ探しに没頭。

もちろんタピオカ・かき氷等々も阿柑姨芋園でしっかりスイーツ休憩しました。

豎崎路で風情を堪能し、ジブリ「千と千尋の神隠し」のモデルと言われる阿妹茶酒館でも、台湾茶をいただきました。

夕食は「火鍋」です。

いろんな具材を単品で注文して、お鍋にに入れて、シャブシャブのようにして食べます。

皆さん辛いが美味しいと、額から汗を流しながら堪能し、ここでもビールに紹興酒で、十分・九份での体験と橋本さんを偲ぶ想い出話で、楽しい食事をしました。



情緒あふれる九份（九份老街）の街並

二九日（日）は故宮博物館に朝一番八時三十分の開館を待って入館しました。その後、故宮郵局（故宮内郵便局）で記念のフレーム切手を購入して、職員さんをお願いして、ホスト前で記念写真を撮っていただきました。

今回は、中正紀念堂（中華民国の初代總統、蔣介石の功績を記念して建設・中央に立つ八角二層の巨大建築）・總督府（壮麗な赤れんが造り、日本統治時代に長野宇平治の設計、大戦後に内部を改装し、台湾總督府として今も使われている）。前回、橋本さんと見たときは、手荷物検査が厳しくライター・カメラ・パスポート等を全て玄関で預けて、見学が許された事を思い出しました。

次に着いたのが、『忠烈祠』衛兵の交替儀式、大門をスタート・中央広場を行進・中門広場でセレモニー・山門を通過・大殿で交替式を見学しました。



これで、橋本聖さんを偲ぶ旅はすべて終わりました。今回の旅は三日間とも雨に降られましたが、不思議なことにも車で移動や建物の中に入っている時は、雨が降って、私たちが外にいる時は、不思議と少し晴れ間が覗いて・・・橋本聖さんに感謝！

公益社団法人ジョイセフは、セクシユアル・リプロダクティブ・ヘルスの向上と女性のエンパワメントを通じて、持続可能な開発目標(SDGs)の達成を目指しています。第1回ジャパンSDGsアワード「SDGs パートナーシップ賞」を受賞しました。

アフガニスタンの子どもたち、特に女の子の就学に役立てる活動です。アフガニスタンでは女の子の2人に1人しか小学校に通っていません。

また、若い女性のおよそ7割が読み書きできません。さらに、女の子は早ければ12〜13歳で結婚させられることも。

アフガニスタンは、妊娠・出産が原因で亡くなる女性の割合が日本の約80倍もあります。その命を救う第一歩は、女性自身が知識を持つこと。読み書きができることで、自分と家族の健康を守ることもつながります。

ランドセルは、女の子が学校へ行くための、きっかけづくりに大きく役立っています。



これまでに届けたランドセル (2004年〜2017年)に届けたランドセルは189,171個

(社)グリーンポストも思い出のランドセルギフトに積極的に参加してまいります。

上段記事の内容に賛同し、公益社団法人ジョイセフが企画する、ランドセルを届ける活動に、積極的に取り組んでいきます。

皆さまのご理解・ご協力をお願いします。送付先、持ち込み先は(社)グリーンポスト事務局です。ご連絡をお待ちしております。

☆新年のあいさつ紹介☆

シーカーアジア財団から(社)グリーンポストあてに年始の挨拶が届きました。

ご紹介します。奨学生からのメッセージはがきが2枚同封されていました。

日本語訳で

【新しい年が素晴らしい一年となりますよう

あなた様のご健康とご多幸を

心よりお祈り申し上げます】

【あなた様の望みが叶い 充実した一年を送れ
そしてますますのご活躍をお祈り申し上げます】

※寄付金として、6月と12月の年2回、会員の皆さまから会費をいただいておりますが、12月分が未納の方はお早めに振り込み等願います。

【お悔やみ】

昨年十二月二十四日に(社)グリーンポスト設立メンバーで初代理事長で、顧問の相馬達雄弁護士がご逝去されました。

設立に当たって、法律についてや各方面の情報をお取りいただきました。その後も代表としてご尽力いただき、カンボジアの学校建設に結びつきました。お別れ会を五月以降に予定しています。

また、一昨年、会員である森山幸さんがご逝去されておりました。

お二方のご逝去を悼み謹んでお悔やみ申し上げます。 — 合掌 —

【編集後記】

毎日、ニュースやワイドショーで取り上げられている『新型コロナウイルス』が、現実的な危機感を持って私たちに迫っています。

外出時にはマスクをする。手洗いは20秒以上アルコール消毒が有効等、かつてない対策を多くの人実践しているせいか、インフルエンザが例年猛威を振るう3分の1とか。

日本、中国などのアジア地域で近年の往來を考えると、交通路(近・短・便)に潜む危険も実は隣り合わせ、ということを改めて感じさせられました。

この危機には一人一人の冷静な対応をお願いするばかりです。

(春)